

日本建築学会北海道支部 2017年度 通常総会
----------------------------

日時 2017年5月19日(金)  
会場 北海道建設会館

---

日本建築学会北海道支部



## 日本建築学会北海道支部 2017 年度総会議案

### I 2016 年度事業報告

日本建築学会北海道支部ホームページは、本部と連動しながら支部独自の HP を検討し、2016 年 5 月に新しい HP に切り替わった。

主だった活動を記載する。第 89 回支部研究発表会を 2016 年 6 月 25 日（土）、北海道職業能力開発大学校（小樽市）において開催し、発表題数 103 題と前年 100 題に対しほぼ同数の発表となり、活発な討論が行われた。特別企画として、中島日本建築学会長が「2015 年度の総括と 2016 年度の展望 建築としての声を一つに」と題して記念講演を行った。講演は、Facebook を通じた配信を行い、事前案内がない中で、相当数のアクセスを記録した。第 36 回北海道建築作品発表会が 11 月 25 日北海道近代美術館において開催された。

表彰関係では、北海道支部技術賞は、「トンネル工法と免震性能最大化設計による地上無補強完全使いながら免震レトロフィット技術の開発と実現」株式会社日建設計が受賞した。第 41 回北海道建築賞は、川人洋志君の「新得町都市農村交流施設 カリンパニ」の設計が北海道建築賞を、菊池規雄君の「日本基督教団 真駒内教会」、ならびに鈴木理君の「ときわの家」の設計が北海道建築奨励賞を受賞した。

出版関係では、2015 年に北海道建築賞が 40 周年を迎え、これを記念して、「北海道建築賞受賞作品 1975-2015」を刊行した。

日本建築学会「女性会員の会」、支部活動は、「建築女子 café」の名称のもと、交流活動を開始した。

#### 1. 支部運営の諸会合の開催

##### ◆ 総会

期日 2016 年 5 月 20 日  
会場 北海道建設会館  
出席正会員 51 名（委任状 14 通）

当支部地域在住正会員 864 名の 30 分の 1、27 名以上の出席により成立

2015 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2016 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

##### ◆ 支部役員会

5 回開催(通信支部役員会含)

##### ◆ 常任幹事会

5 回開催

##### ◆ 選挙管理委員会

1 回開催

#### 2. 学術系委員会の活動

##### 2. 1 学術委員会（主査：長谷川拓哉君，佐藤 孝君，委員数：13名，委員会開催数：4回）

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および特定課題研究委員会に伝達するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特定課題研究の推薦、建築文化週間事業企画および道内工業高校巡回講演会講師派遣について議論し決定した。また、北海道支部技術賞の募集および技術賞選考委員会の設置に基づいて表彰技術候補の選考を行なった。2016 年度の支部研究発表会において「技術パネル展示」を開催した。詳細は以下の通り。

## (1) 研究補助金

- ・特定課題研究委員会  
「戦前馬産地の建築研究委員会」主査：西澤岳夫 2016-17（継続）
- ・本部からの支部助成金による研究委員会  
「寒冷な人口減少地域における Fuel Poverty の実態に関する研究」主査：森 太郎 2015-16
- ・2017 年度特定課題研究  
「寒中コンクリート新技術の動向調査」主査予定：濱 幸雄 2017-18（新規）

## (2)北海道支部技術賞選考部会

2016 年度支部技術賞は、下記 1 件の応募（応募順・技術名のみ記載）があり、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の 3 つの観点から表彰候補技術として選定した（選定理由は支部技術賞の項目を参照）。

表彰技術名 トンネル工法と免震性能最大化設計による地上無補強完全使いながら免震レトロフィット技術の開発と実現

## (3)建築文化週間事業

2016 年度 事業として以下の 2 つの催事を実施した。

- ・見学会「建築散歩～毛綱建築を楽しむ」歴史意匠専門委員会、  
10 月 8 日に実施、参加人数 41 名。釧路市立博物館、釧路市湿原展望台（共に日本建築学会賞）、反住器などを見学。
- ・「くしろ防災屋台村～地震時の我が家のバーチャル体験」都市防災専門委員会、  
10 月 22 日釧路市にて実施、参加人数 348 名。

2017 年度建築文化週間企画

- 「鉄のまち室蘭の原点を巡る」歴史意匠専門委員会
- 「くしろ防災屋台村」都市防災専門委員会

## (4)支部研究発表会 技術パネル展

2016 年度の支部研究発表会（会場：北海道職業能力開発大学校）において技術パネル展を開催し、8 団体から、建築計画、材料施工、環境工学、北方型住宅、歴史意匠などに関わる技術パネルの出展があった。昼休みと懇親会にてパネル発表の時間枠を設け、盛会に終了した。

## (5)支部公式ウェブサイトのシステム・コンテンツ更新

支部ホームページ管理委員会と連携し、支部公式ウェブサイトのシステムおよびコンテンツが 2016 年 4 月から更新運用された。また、支部活動の広報力を増強するため、支部公式ウェブサイトに加えて、支部公式 Facebook の運用を開始した。

## (6)道内工業高校 巡回講演会への講師派遣

- ・札幌工業高等学校に材料施工専門委員会、雁部 剛志（がんべ たけし）委員（竹中工務店）を派遣し、講演「現場の仕事～その魅力と最新の現場管理」（2016.12.21）」を実施した。参加者 84 名
- ・函館工業高等学校に建築計画専門委員会、真境名 達哉（まじきな たつや）委員（室蘭工業大学）を派遣し、講演「北のすまいーその特長を広い視点から考えようー」（2016.12.7）」を実施した。参加者 80 名

<今後の予定：担当専門委員会>

- ・2017 年度：歴史意匠専門委員会、都市防災専門委員会
- ・2018 年度：構造専門委員会、環境工学専門委員会
- ・2019 年度：都市計画専門委員会、北方系住宅専門委員会
- ・2019 年度：材料施工専門委員会、建築計画専門委員会

## 2. 2 専門委員会の活動

### ◆ 材料施工専門委員会（主査：長谷川拓哉君，杉山 雅君，委員数：26 名，委員会開催数：4 回）

2016 年度は、専門委員会を 3 ヶ月に 1 回程度の割合で、計 4 回開催した。委員会では、本部材

料施工本委員会など各種委員会報告や諮問事項について検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換を行った。また、興味ある話題や今日的な話題について、事前に担当者を決め報告をしていただき、最近の研究動向について意見の交換を行った。話題提供として「PMP コンクリートについて」酒井氏（曾澤高圧コンクリート（株））、「膨張材による収縮低減挙動のマクロ予測等」崔委員（室工大）を行った。

現場見学会として、2016年7月25日（月）に「札幌創世 1.1.1 区北 1 西 1 地区市街地再開発事業」見学会を実施し、12名の参加があった。2017年2月14日（火）に構造専門委員会と共同後援で「鉄工所」を見学した。

◆ 構造専門委員会（主査：串山 繁君，委員数：23名，委員会開催数：2回）

委員会の主な活動は次の通り。

- 1) 構成委員数は23名
- 2) 委員会は、6月24日、12月7日の2回開催（2回共都市防災専門委員会と合同）し、他に幹事会を1回10月3日に開催した。
- 3) 講演会は、6月17日に渡辺邦夫氏（構造設計集団SDG）「コラボレーションの時代」（主催）日本建築家協会北海道支部を後援開催、10月3日「道産木材シンポジウム：北海道の木造建築と防災技術－耐震・防耐火を考える－」（主催）北海道木材産業協同組合連合会を後援開催、11月11日徳淵正毅氏（ARUP）「設計者がデザインできること」を日本鉄鋼連盟と共催、合計3回開催した。
- 4) 見学会は、7月25日、8月10日「創世 1.1.1 区北 1 西 1 地区市街地再開発事業」の現場見学会および2月14日「建築鋼構造フィールド・スタディ」（北海道地区）：建築鉄骨製作工場の見学会（主催）日本鉄鋼連盟を後援開催、合計3回実施した。いずれも材料施工専門委員会との合同開催である。
- 5) 勉強会は、12月7日に大津直氏（北海道立総合研究機構 環境地質研究本部）を講師として「道内の活断層について」を実施した。

◆ 環境工学専門委員会（主査：岸本 嘉彦君，委員数：18名，委員会開催数：2回）

2016年度は以下を実施した。

- 1) 第1回委員会（2016/11/7，北海道大学工学部 A115 会議室，参加者 10 名）にて，若手研究者の研究発表の機会を設けた。「枠組壁工法床の重量床衝撃音遮断性能の向上と評価について」と題して廣田誠一氏（北方建築総合研究所）に発表頂き，最新の研究動向を把握した。
- 2) 住宅見学会「白石の家」を北方系住宅委員会，建築計画委員会と共催した（2016/11/12）。
- 3) 空気調和・衛生工学会北海道支部セミナー“地中熱利用の最前線”を支援した。（2016/12/16，北海道大学工学部フロンティア応用科学研究棟レクチャーホール，主催：空気調和・衛生工学会北海道支部，定員 100 名）
- 4) 「第 11 回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs' 16」を開催した（2017/3/9，札幌市立大学サテライトキャンパス，発表題数 24 件，参加者 70 名程度）。また特別講演会を企画し，「設計者の視点から見た建築環境学に関して」と題して大杉 崇氏（株式会社 ATELIERO2 代表取締役）に講演頂いた。
- 5) 第 2 回委員会（2017/3/9，札幌市立大学サテライトキャンパス，参加者 11 名）にて，今後の活動方針等を確認した。

◆ 建築計画専門委員会（主査：真境名達哉君，委員数：13名，委員会開催数：2回）

本年度もこれまでの活動実績を踏まえつつ、公開研究会を最終成果とする勉強会・見学会を催した。ここ近年は最終成果公開研究会として開いてきたが、今年度のテーマである「オリンピック・パラリンピックに関する計画課題の把握」は単年度では結論を得ず、次年度も引き続き同じテーマで行うこととなった。

◆ 都市計画専門委員会（主査：岡本 浩一君，委員数：13名，委員会開催数：6回）

活動の内容：道内の都市計画やまちづくり活動の課題や先進事例等について意見交換をおこった。同時に、都市畑ではなく建築学会北海道支部の都市計画専門委員会として、果たすべき役

割やあり方について議論を深めた。面としての都市計画思考を踏まえつつも、点である建築や地域活動等を介して都市のあり方や関係性を見つめる連続企画「わたしの職能」を開始した。各専門分野で活躍の委員全員が順に講師となり、業務や研究から得られた知見や問題意識あるいは実践例を題材に、若手から専門家まで広く情報や意見の交換を行うものである。これまでの3回に延べ52名が参加した。

◆ **歴史意匠専門委員会**（主査：西澤 岳夫君，委員数：16名，委員会開催数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として社会や住民に発言する活動を行った。具体的には、建築文化週間事業として、見学会「建築散歩～毛綱建築を楽しむ」（10/8、参加者41名）、勉強会「建築タイプの歴史」（10/27、参加者35名）を開催した。その他、道内戦前馬産地における歴史的建造物の基礎研究の一環として独立行政法人家畜改良センター十勝牧場内を調査した。

◆ **北方系住宅専門委員会**（主査：谷口 尚弘君，委員数：13名，委員会開催数：2回）

- 1) 「北海道の住宅の歩み」パネル展を北海道博物館との共催により実施した（平成29年2月3月）。
- 2) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会（2007年から継続的に実施、今年で9回目）を札幌市厚別区「白石の家（藤島喬氏設計）」にて開催した。
- 3) 本委員会は支部活動の活性化のために、縦糸だけではなく専門を越えた横糸も大切にという意識で設置され、実務の方々も多く活動に協力してきた。そこで、これまでの北方系住宅専門委員会の過去を知り、今と将来に向けた展望についての議論を実施した。

◆ **都市防災専門委員会**（主査：戸松 誠君，委員数：19名，委員会開催数：2回，通信委員会開催数：5回）

都市防災専門委員会では、10月22日に釧路市で開催された第7回くしろ安心住まいフェア（主催：北海道釧路総合振興局）において建築文化週間事業「くしろ防災屋台村」を出展し、一般住民の防災意識向上や地域の防災力向上に対する支援活動を行った。また、本部災害委員会からの災害情報に関して、委員会内部に周知し情報の共有を図った。

## 2. 3 特定課題研究委員会の実施

（2016年度より）

◆ **道内戦前馬産地の建築調査研究委員会**（主査：西澤 岳夫君，委員数：16名，委員会開催数：4回）

本研究は、戦前の北海道馬産地に建設された建築の特徴やその変遷を把握するため、これまで研究対象として顧みられることが少なかった明治43年創立の十勝種馬牧場（現 家畜改良センター十勝牧場）を主軸に日高・十勝地方に遺存する当該建築を調査し、今後の調査・分析の基礎資料を構築することを目的とする。平成28年度は、十勝牧場内の築50年を経過した建築（非防疫エリア）の現存状況を把握し、①構造、②規模、③建築年を整理しリスト化するとともに、うち1棟（明治43年竣工）の実測図を作成した。

## 2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

（2015年度より）

◆ **寒冷な人口減少地域における Fuel Poverty の実態に関する研究委員会**（主査：森 太郎君，委員数：5名，委員会開催数：3回）

- 1) 2015年に美瑛町で実施したアンケート調査の結果、統計情報の整理結果を日本建築学会北海道支部研究報告会、日本建築学会大会、空気調和衛生工学会大会にて報告した。
- 2) 砂川市にてアンケート調査を実施した。
- 3) OFF4G Hokkaido featuring with SappoRoR（2016/12/16）にて研究成果を報告した。

- 4) 2016/11/10 に釧路市において釧路市の若年層を対象としたアンケート調査に関する打ち合わせを実施した。(委員1名)
- 5) 2016/11/11 に釧路市において釧路市の若年層を対象としたアンケート調査に関する打ち合わせを実施した。(委員1名)
- 6) 2017/3/3 に釧路市の若年層を対象としたアンケート調査に関する打ち合わせを実施した。(委員1名, 学生1名)
- 7) 公開統計情報を用いた Fuel Poverty の実態把握方法について検討した。
- 8) 2016年の調査結果を2017年度日本建築学会大会にて報告する予定。
- 9) 2015-16年度の研究成果を日本建築学会北海道支部研究報告会で公表する予定。
- 10) 研究成果を日本建築学会環境系論文集に投稿する予定。

### 3. 委託調査研究の受託

なし

### 4. 支部研究発表会の実施 (主査: 岡本 浩一君, 実行委員会委員数: 16名, 委員会開催数6回)

#### 4. 1 開催要領

日本建築学会北海道支部 第89回研究発表会  
 日時: 2016年6月25日(土)  
 場所: 北海道職業能力開発大学校(小樽市)  
 参加者数: 約160名

#### 4. 2 実行委員会委員

主査: 岡本浩一(北海学園大学)  
 幹事: 三浦誠(北海道職業能力開発大学校)  
 委員:  
 構造専門委員会 / 大西直毅(北海道大学), 串山繁(北海学園大学)  
 材料施工専門委員会 / 足立裕介(北海学園大学), 福山智子(北海道大学)  
 環境工学専門委員会 / 三浦誠(北海道職業能力開発大学校), 森太郎(北海道大学)  
 建築計画専門委員会 / 馬場麻衣(北方建築総合研究所), 野村理恵(北海道大学)  
 都市計画専門委員会 / 片山めぐみ(札幌市立大学), 久保勝裕(北海道科学大学)  
 歴史意匠専門委員会 / 西澤岳夫(釧路工業高等専門学校), 羽深久夫(札幌市立大学)  
 都市防災専門委員会 / 石井旭(北方建築総合研究所), 中嶋唯貴(北海道大学)  
 北方系住宅専門委員会 / 高倉政寛(北方建築総合研究所), 谷口尚弘(北海道科学大学)

#### 4. 3 実行委員会開催スケジュール

2015年12月末: 建築雑誌会告入稿  
 2016年1月: 第1回実行委員会メール会議, 建築雑誌会告  
 2016年2月: 第2~4回実行委員会メール会議(論文投稿用HP掲載情報確認・作成)  
 2016年3月: 論文原稿募集  
                   第5~7回実行委員会メール会議(進捗報告, プログラム編成関連確認)  
 2016年4月14日: 論文投稿締切日  
 2016年4月22日: 第7回実行委員会(プログラム編成)  
 2016年5月: プログラム校正  
 2016年6月中旬: CD発送  
 2016年6月25日: 支部研究発表会  
 2016年6月下旬: 第8回実行委員会メール審議

#### 4. 4 研究発表会

論文題数: 104編 (A原稿: 85編, B原稿: 10編, C原稿: 9編, D原稿: 0編)

優秀講演奨励賞

構造：三室貴憲（室蘭工業大学）、峯知宏（室蘭工業大学）

材料：都築敦大（北海道大学）

環境：高橋光一（室蘭工業大学）

計画：姜昇具（東京理科大学）、松田かりん（北海道大学）

歴史：西澤天汰（北海道職業能力開発大学校）

#### 4. 5 特別企画

テーマ：建築としての声を一つに

プログラム

講演：中島正愛（一般社団法人 日本建築学会会長・京都大学防災研究所教授）

挨拶：福島明（北海道科学大学）

司会：岡田成幸（北海道大学）

記録：岡崎太一郎（北海道大学）

参加者数：100名

#### 4. 6 技術パネル展（学術委員会主催）

2014年度（第87回）に構造専門委員会が会場を活用して実施した「技術パネル展」を学術委員会  
が引き継ぐ形で企画・開催した。8団体組織から出展があった。発表会場にて昼休みを中心とし  
た展示解説、および懇親会にてパネル発表の時間枠を設け、盛会に終了した。

#### 4. 7 懇親会

会場：小樽ビール銭函醸造所

会費：一般=4,000円、学生=2,000円

参加者数：85名（一般：50名、学生35名）

### 5. 表彰

#### 5. 1 北海道建築賞

(1) 北海道建築賞委員会（主査：山田 深君 委員7名 委員会開催数3回現地審査3回）

審査員：

主査：山田 深君

委員：赤坂 真一郎君、小篠 隆生君、海藤 裕司君、斉藤 利明君、佐藤 孝君、  
福島 明君

(2) 受賞者

◆北海道建築賞

川人 洋志君（川人洋志建築設計事務所）

作品名—「新得町都市農村交流施設 カリンパニ」の設計

◆北海道建築奨励賞

菊池 規雄君（㈱アトリエブク）

作品名—「日本基督教団 真駒内教会」の設計

◆北海道建築奨励賞

鈴木 理君（㈱鈴木理アトリエ一級建築士事務所）

作品名—「ときわの家」の設計

(3) 審査経緯

新体制となって二年目となる本年度の北海道建築賞委員会は、第1回の委員会を4月28日  
に開催し、表彰規程や審査日程を確認した上で、応募作品に対する審査方法について審議し  
た。続いて、この時点での応募作品はまだなかったが、「北海道建築作品発表会作品集2015」  
等の情報をもとに、今年度の審査対象になり得るような注目すべき作品について議論した。



ここで挙げた作品の中から、委員会からの応募推薦対象作品として5作品を選定し、各設計者に応募についての検討を依頼することとした。

応募締切を経て開催された第2回委員会（5月23日開催）では、作品審査に関わる学会倫理規定と具体的な審査方法を確認した上で、応募推薦対象作品の中から実際に応募された4作品を含む以下の計14作品を、今年度の審査対象とした。

応募作品および設計者（応募順）

- ①下川町のトドマツオフィス（内海彩君、佐藤孝浩君/（株）KUS 一級建築士事務所、桜設計集団）
- ②函館アリーナ（井上久誉君、江頭恵一君、中村光邦君、北原和俊君、塚田俊君/（株）大建設、（有）ティーアンドパルス）
- ③日本基督教団 真駒内教会（菊池規雄君/（株）アトリエブク）
- ④明治安田生命札幌大通ビル（雨宮正弥君、奥村彰浩君/（株）日本設計）
- ⑤みそぎの郷きこない（伊達昌広君、瀬尾寛美君/（有）伊達計画所、（株）高岡建築設計事務所）
- ⑥室蘭の歯科（桐圭祐君/KIRI）
- ⑦丘のまち交流館“bi.yell”（小澤丈夫君、宮城島崇人君、菊池規雄君、梶田洋子君、山脇克彦君/北海道大学大学院、宮城島崇人建築設計事務所、ワンダーアーキ建築設計事務所、桃季舎、山脇克彦建築構造設計）
- ⑧北菓楼札幌本館（西田達生君、横尾淳一君、安藤忠雄君/（株）竹中工務店北海道支店、安藤忠雄建築研究所）
- ⑨036（臼井巧君/OFFICE FOR DESIGN）
- ⑩北光の家（杉山友和君/一級建築士事務所アーカイヴ）
- ⑪新得町都市農村交流施設 カリンパニ（川人洋志君、斉藤雅也君/川人建築設計事務所、札幌市立大学）
- ⑫サービス付き高齢者向け住宅「あやとり」（三浦友己君、團塚紀祐君/大成建設（株）一級建築士事務所）
- ⑬西野の家（高木貴間君/高木貴間建築設計事務所）
- ⑭ときわの家（鈴木理君/（株）鈴木理アトリエ一級建築士事務所）

これらの応募作品に対し、今年度の北海道建築賞においても継続して「先進性」「規範性」「洗練度」の3項目を基本的な評価軸とすることを確認した上で、第一次審査として応募書類による現地審査対象の選考を行った。各委員が個別評価を述べた後に、各作品について活発な議論が為され、現地審査対象作品として、③「日本基督教団 真駒内教会」、⑥「室蘭の歯科」、⑦「丘のまち交流館“bi.yell”」、⑧「北菓楼札幌本館」、⑨「036」、⑪「新得町都市農村交流施設 カリンパニ」、⑬「西野の家」、⑭「ときわの家」の8作品を選定した。

現地審査は、7名の委員全員出席のもと、7月9日に⑦⑨⑪、7月30日に③⑬⑭、8月20日に⑥⑧の日程で行った。現地においては、設計者本人からの説明に加えて、質疑を通じてそれぞれの建築の詳細を把握することができた。

第3回の委員会（9月1日開催）では、現地審査を行った8作品を対象として、最終選考を行った。選考方法を再度確認した上で、まず各委員が8作品それぞれについての評価を述べるとともに、次の段階の議論へと進めたい作品を挙げた。この時点で高い評価を得られなかった⑦「丘のまち交流館“bi.yell”」、⑬「西野の家」については、賞の対象から外すこととした。残りの6作品については、個別に多くの観点から検討がなされ、賞の決定に至るまでの議論は長時間に及んだ。最終的に北海道建築賞に⑪「新得町都市農村交流施設 カリンパニ」、北海道建築奨励賞に③「日本基督教団 真駒内教会」および⑭「ときわの家」とすることを、委員全員の同意のもとで決定した。

「新得町都市農村交流施設 カリンパニ」は、農場において内外の様々な交流を促す場を、シンプルながらも密度の高いデザインで実現したものである。長閑な農場の風景の中にあっ

て、白い頬杖が整然と鋭く立ち並ぶその佇まいからは、一見して凜とした場の気配を感じ取ることができる。全床面積の半分をも占める“縁”の空間は、内外をつなぐ“縁”であると同時に主たる空間であるともいえる。またここは自然の繊細な移ろいを映し出す場であるとともに、季節によるモードの切り替えが温熱的な検討も加えて肌理細かくデザインされている。北海道において半外部的な空間は、これまでも多くの優れた試みが為されてきたといえるが、何よりもこれほどまでに一貫した美学において提示された前例はなかったであろう。以上のことから、本賞に値する優れた成果であると認め設計における統括責任者を北海道建築賞とするものである。

「日本基督教団 真駒内教会」は、光によって彩られた聖堂の美しさが際立つ建築である。小振りな聖堂の大きさに対して、アンバランスなまでに彫りが深くエッジの効いた枡形格子を通して、繊細に異なる光が上部から降り注いでくる。その光を導くための造形が、外部の形態へとそのまま印象的に現れてくることも、この建築を力強いものになっている。四方の壁面をわずかに内側に傾斜させるなど、作者の明確な意図によって細部に至るまで神経の行き届いた設計が為されている。審査においては、聖堂と回廊などその他の部分との関係性に対する物足りなさの指摘もあったが、施主側と長い時間をかけて入念な検討が為されたことが伺えること等も含め、全体的な完成度の高さを認めることができる。

「ときわの家」は、作者自らの住居とアトリエに加えて父親の週末住宅や彫刻家のアトリエを内包するなど、一般的な多世帯住居とは異なる特異なプログラムを持つ建築である。そのプログラムを、2×4間を基本とするユニットとそれらのズレによって互いの適度な距離感を生みつつ巧みに解いている。さらに収納や水廻りを収めた小さなユニットをふたつ加えることで、国道側からの視線を遮りつつ、ユニットの隙間に単純ではない豊かな空間を創り出すことに成功している。決して新規性を問うような建築でないものの、素材やレベル差の吟味なども含めて、身体に沿うような水準で丁寧設計された佳品である。

現地審査を経て、残念ながら選外となった5作品についても以下の通り総評を簡潔に述べる。

「室蘭の歯科」は、家型のフレームを等間隔で並べるという明快な形式において、土地との関係や歯科というプログラムに対する新たな提案をしている。都市的スケールでの論理と歯科という機能的な論理を、このひとつの形式で関係づけようとするのは興味深いものである。一方で、直裁的に形式を表現しようとする‘わかりやすさ’の反面、それが逆に、まず形式ありきのある種の‘堅さ’につながっているようにも思われた。

「丘のまち交流館“bi.yell”」は、既存の商業施設を多機能のコミュニティ施設へとリノベーションするというそれ自体困難なプログラムにおいて、軟石の調査や町との様々な折衝など、長期に渡り広範な角度から粘り強く検討を重ねた力作である。設計+監理という従来の建築家の職能の枠組みを超えて行動すること自体が、ここでの大きな提案であるともいえるが、語られた論理と操作を建築空間そのものの魅力として感じ取することは少々難しいように思われた。

「北菓楼札幌本館」は、もともと道の図書館だった建物を、民間企業と設計者による事業プロポーザルを経て改修し実現した力作である。古い様式建築などを表層だけ残して背後に高層建築を建てるような従来からある手法とは異なり、構造的な補強をすることで既存煉瓦壁を構造的・空間的により自立したものとしている。床スラブからも自由になった煉瓦壁によって、このような貴重な建築物の保存・改修に対して、多くの可能性を広げる提案となっていると思われる。様々な困難をクリアした大変な労力を含め、この優れた技術的提案には高い評価が為された。しかし、主に上層階の内部空間は魅力的であるものの、そこには技術的提案とのつながりが希薄であり、単なる‘インテリア’となっているように感じられたことが悔やまれる。最後までどのように位置付けて評価するかの議論がなされたが、本賞に該当する総合的な意匠的観点から判断して、賞の対象として見送ることとした。

「036」は、重度の障害を持つ子供とその家族のための住宅である。言葉がよく理解できない子供のために、日常生活において世界観を形成する手助けとなる‘座標’のようなものを空間的に創り出そうとしている。そのために、無柱の大きなひとつの内部空間と外部の庭空

間において、二次的に空間を分節する要素が操作的に用いられている。細部までの興味深いこだわりが見られるが、建築家の詩的かつ私的なイメージを超えて、これが本当に子供と家族にとって魅力的な空間となりえているかについては疑問が残った。

「西野の家」は、北海道における半外部空間のあり方を、構成的な側面からより積極的に提案しようとするものである。変形し傾斜した狭小敷地において、諸空間をコンパクトにまとめ上げた構成力に、作者の確かな力量をみることができる。しかしながら、半外部空間は、特に北海道においては温熱的な側面においても検討を加えないと、有効な場となり得ないと思われる。この半外部空間のために、その他諸室が逆に窮屈に感じられることも気になる点であった。

(文責：山田 深)

#### (4) 審査講評

##### ◆ 北海道建築賞 「新得町都市農村交流施設 カリンパニ」

国道から外れ、美しい並木道に沿って日高山脈に向かうと共働学舎新得農場が見えてくる。ここは、心身に妨げを抱えているなど様々な事情により、社会から距離を置いて生活を送らざるを得なくなった方々が共に暮らしながら、農業や酪農を通じて、社会とのつながりを生み出す活動をしている農場である。特にここでつくられたチーズは全国区の人気品で、世界的な評価も高く、その技術を学ぼうと、国内だけでなく海外からもここを訪れる人々が増えている。こうした状況から「カリンパニ」には農場の人々だけでなく、チーズ作り体験や、料理教室といった地域に開かれた催し、そして十勝地方の福祉、農業ツーリズム、酪農に関わる会議や研修を行う集いの場としての機能が求められた。

作者が持つ繊細かつ鋭い感受性によって、敷地とその周辺に隠された諧調的コンテクストを明示し、農場内の起伏や他施設との関係を思慮したうえで、注意深く配置が決定されている。建物は、大きな縁側を形づくる片持ちスラブと、それを覆うのびやかなフラットルーフが成す水平ラインが印象的であり、山々や梢とのコントラストが美しい。深い庇を支える柱と、薄く軽やかな軒先を実現するための斜材は縁側をリズムカルに取り囲み、外観はさながら木工芸品を思わせる。正方形に近いスクエアな大屋根の下に、機能・設備・構造を合理的に担う複数のボックスが慎重に配置され、その間に、様々なアクティビティに対応できるフレキシブルな場が立ち現れている。縁側に対して大型の木製引戸を開閉すること、更には縁側の外周に農業用メッシュなどを張ることにより、季節やイベントに応じた活動領域の変容と選択が可能となっている。こうした空間につくられる工学的検証を経た意図的な温度ムラは、新たなアクティビティを誘発し、施設運用の可能性を広げ、今後の農場の活動展開に大きく貢献するだろう。この諧調的空間を構成するすべてのエレメントは、その形状、質、色、艶などにおいて、作者による深い吟味がなされており、それらが相俟って、光や風、僅かな起伏、木々の色づきなど、日々の生活においては見過ごしてしまいそうな自然のざわめきを捉え、顕在化し、まさに作者が目指した「楽器のような建築」を形づくっているとと言えるだろう。

ともすれば「北海道の原風景」という言葉で括られがちな、牧歌的表情を持つ建築が並ぶことも考えられる今回の敷地において、作者はクライアントの求めを満たしつつ、丁寧に敷地を読み解き、フラットな屋根の内外に、周辺の自然を凝縮した森のような場を提示した。それは様々な現象を内包し、人の動きや意識の変化に大きな振幅を持って寄り添い、自在に姿を変えうる「動く」空間である。理論とデザインが先鋭化し、体験が伴わない建築が少なくない昨今、独自の美学と環境工学的検証とに裏付けされた、体験できる「北の建築の新たな類型」のひとつを示した功績は大きい。

(文責：赤坂真一郎)

##### ◆ 北海道建築奨励賞 「日本基督教団 真駒内教会」

札幌の緑豊かな住宅地に建つプロテスタント教会の建て替えである。外観はのこぎり屋根に特徴があり、敷地内にある同教団の幼稚園の庇に合わせた教会のアプローチ庇の高さが関連性を成

している。この教会は回廊により、礼拝堂を取り囲んだ空間構成の建築である。

中心にある礼拝堂に入り、天を仰ぐと数十の光井戸から降り注ぐ光に目を奪われる。陽光による微妙な色の構成体となって現れている。東西に向けられたトップライトは昼から夕刻にあって、天空の青白の空色と同時に西の空からの淡い黄の光を受ける。光は微妙に角度をもつ光井戸を通過するうちに、繊細な色となって礼拝堂に降り注ぐ。トップライトの形状は、構造材と雪を切る鋭角の屋根断面のディテール検討が入念におこなわれた結果であり、同時に多様な光を創出し、ダイナミックかつ神秘的な礼拝の空間をつくっている。またこの礼拝堂は、音楽の場とも捉えており、深い光井戸のトップライトや木質の縦ボーダー壁が反響や残響の調整をしている。

回廊のあるこの教会は、ルイス・カーンのフォーム・ダイアグラムで有名なファースト・ユニタリアン教会とプランが重なる。牧師が信者の質問を受け、周りの人々に話しかける回廊の場は、礼拝堂の中までは入ろうとしない手前の領域である。そして牧師や信者たちのコミュニケーションの場となる。真駒内教会も回廊をもち、エントランス、厨房、窓側に沿って長くテーブルが置かれ、バザーや絵の展覧会など活動的に使われており、人が集まり交流する場となっている。一方、祭壇領域を光の象徴空間とした教会建築は多く見られるが、この真駒内教会では、全面光井戸の天井からの天の光をすべての信者の席に平等に与えた聖域を創っている。

この教会は指名プロポーザルでアトリエブクが選ばれ、主たる設計者として菊池規雄が手がけている。菊池がこれまでに単独で設計したものの中には、回廊形式の印象深い作品が幾つか見られる。例えば、「八王子みなみ野の家」は半地下の音楽スタジオを中庭に埋め、過密な住宅地での防音と中庭上部からの採光を得て、場所の読み取りと使う者の切実な想いを結実させてきた。住宅地にあり、幼稚園と隣接するこの真駒内教会は、回廊が木製カーテンウォールの透明性の外壁によって外そして社会に開いている。教団の心や思いを汲んだ設計であり、礼拝堂にあっては、すべての信者の席に光を平等に与えようとした祈りの場の解釈と空間創出にオリジナリティがあり、優れた作品として評価する。

(文責：佐藤 孝)

#### ◆ 北海道建築奨励賞 「ときわの家」

丹念に設計された建物である。真駒内川の沢と支笏湖に向かう国道に挟まれた手強い地形を読み、居住者の暮らしを読み、どこをとっても設計者の気配りが行き届いた優しい住宅となっている。建物の造形や敷地計画、室内の平面計画や大きさ、窓の大きさや角度、開き方までも、居住者の暮らしを考え抜いている。

支笏湖に向かい芸術の森を抜けたところに、木縦張り外装の古い納屋のような建物が木立の中に肩寄せ合って建っている。それは緑の中のシーランチのようにもみえる。また隙間の屋根の緑は、一見盛り上がった地面のようでもあり、周囲の緑と同化している。外部との調和を徹底して考えている作品として、終わっていないアプローチの始末を見てみたかった。

柔らかな外観がそのまま内部空間にも繋がり、小ぶりの内部空間を持つ幾つかの建物は、隙間の空間を窓の配置によって室内空間づくりに巧みに使っている。敷地条件を生かして、沢の緑を取り入れることにも余念がない。沢の緑に向かって大きなガラス面で開放されていても、十分に守られた居心地の良い空間を提供している。細部にまで設計に手を掛けていることが覗える。一枚ガラスで構成された絶妙な斜め屋根の角度と方向がそれを物語っている。施主自らの居住空間とアトリエ、そして、テンポラリーな二人の同居人という、不思議な条件を巧みに仕切り、繋げ、小さな空間の集合ながら、開放性も獲得している。

全てが丁度よい、という印象を受ける。これは建築的にどんな意味を持つかは難しいところだが、住まう側にとっては、この上ないことである。これまで蓄積してきた建築家としての設計力が、余すところなく発揮されているのだろう。

設計の力量は、意匠設計だけではない。北海道の建築家たちが獲得してきた高い住宅建築技術、その最先端をさりげなく、当たり前のように取入れ、その上で美しく見えるディテールを独自に工夫している。その技術設計力の高さも評価すべきである。

自邸の設計から始まった独創的なデザインアイデアが、新たなクライアントの

設計に加わる時、そこにどんな建築が生まれてくるのか、期待が膨らんだ。  
(文責：福島 明)

## 5. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

### （1）卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見君，委員数：6名，委員会開催数：1回）

2015年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は「大学」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞2点を選定した。「短大・高専・専門学校」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞1点、を「工業高校」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞1点を選出した。審査後、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：

主 査：菅原 秀見君

委 員：遠藤謙一良君，小倉 寛征君，小西 彦仁君，齊藤 文彦君，中山 眞琴君

### （2）受賞者

#### ◆ 大学の部 （応募作品数：13点）

- ・金賞 佐藤 優太君：北海学園大学工学部建築学科  
作品名 — 六冬の群像—市庁舎の境界を解く—
- ・銀賞 桐谷 あやの君：東海大学国際文化学部デザイン文化学科  
作品名 — たたむ 何も引かない、未来だけ足す
- ・銅賞 八木 悠君：北海学園大学工学部建築学科  
作品名 — 一そして「 」は彼らを想う—

#### ◆ 短大・高専・専門学校の部 （応募作品数：3点）

- ・金賞 ランディ ハントロ君：釧路工業高等専門学校建築学科  
作品名 — Scenery of Words—釧路国際旅客船ターミナル—
- ・金賞 中山ゆかり君：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科  
作品名 — 湧水交差点
- ・銀賞 炭田あすみ君：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科  
作品名 — 纏う

#### ◆ 工業高校の部 （応募作品数：8点）

- ・金賞 鈴木 志穂君：北海道名寄産業高等学校建築システム科  
中矢 共起君：北海道名寄産業高等学校建築システム科  
渡辺 和樹君：北海道名寄産業高等学校建築システム科  
作品名 — 名よせの足あと
- ・銀賞 館山真理奈君：北海道函館工業高等学校建築科  
作品名 — 「函館銀座通り」の再生計画～甦る大正ロマン～
- ・銅賞 折尾 渉君：北海道旭川工業高等学校建築科  
作品名 — 旭川市役所新総合庁舎案

### （3）審査講評

#### ◆大学の部

金賞・佐藤 優太君

この作品は昨今話題になっている旭川市庁舎の建替え問題に着目し、周辺に分散している現状の市役所機能の統合と市民の場をつくるために歴史的価値のある現庁舎を再生利用し、また

問題となっている耐震補強をおこなう提案である。

新しく増床を行っているがその手法はあくまでも低層棟の水平性と高層棟の垂直性のデザインボキャブラリーを守りながら構築され、現在の問題を解消するものである。これは現庁舎への敬意と作品価値を見極めた結果であり、社会的意義と未来への街の財産をも視野に熟察されている。

旭川の歴史的スカイラインを守る姿勢と提案は金賞に相応しく現実みさえ感じさせる。

(文責：小西 彦仁)

銀賞・桐谷 あやの君

この作品は過去と現在と未来をつなぐ、実に重要な手法の街づくり再生構法である。

スクラップ&ビルドの日本社会に一つの光ある方向性を示唆している。

具体的でもあり、現実的で、未来的でもある。

過去から現在までの継承や歴史も建築の素材になっており、なんとも明解である。

綿密な調査から得た確実性もこの作品をより強固なものにしている。

プレゼンテーション力が少々欠けていたため銀賞になったが、充分金賞の内容を孕んでいる。

(文責：中山 眞琴)

銅賞・八木 悠君

人の終りを火葬と考え、身寄りのない孤独死した者を弔う為の空間、火葬場の提案である。

多くの火葬場は、故人の親族や友人関係者が故人を送る事を前提につくられており、その空間は送る人が主体となった計画になっている。

孤独死した方は、送る人がいない為、火葬の空間は、それを執り行う人が主体となった利便的計画となる。

本計画は孤独死した人全てが、尊厳を持って死を迎え送られる為の空間であり、その空間の主体は、孤独死した当人であり、執り行う職員でありまれに訪れる人々である。

人が不在であっても孤独死した人が尊厳ある死の瞬間を迎える為につくられた建築は大地に確かな痕跡を刻み、敷地の環境や海や空の世界と空間が繋がり、融合しながらやがて火葬の空間で光に満ちた無限の世界に昇天する。

人間が自然の一部である事をシンプルに強く痛感する本質的な、テーマに向かった創造力は、優れており銅賞に値する。

(文責：遠藤 謙一良)

#### ◆ 短大・高専・専門学校の部

金賞・ランディ ハントロ君

人口減少に悩む釧路の観光の起爆剤となることを目指した大型旅客船ターミナルの計画である。用意される無数の風船がターミナル屋上から噴き出る歓迎イベントや小さなクルーザーへの乗り換えの仕組みなど、わくわくする提案が楽しい。自由曲面によるその造形やターミナルに新たな風景をもたらすこと自体は、既視感はあるものの、それらを一つの提案にまとめ上げた力量は、見事であり、金賞を授けるものである。

(文責：齋藤 文彦)

金賞・中山ゆかり君

「水」と「ひと」の関わりをテーマとした提案である。

豊かな水に人が集まり、コミュニティが形成され、産業が栄えた。その地域が今、衰退の時期を迎えている。建築の力で新たな魅力を生み出せないかとの作者の素直な思いが感じ取れる。建築のプログラムは、旭川市東旭川町において、大雪山の湧水を抛り所とした、自然と共生した交流の場である。訪れる人は、田園の中に点在する湧水小屋を巡り、丘のようなドーム状の建築にたどり着く。その内部には湧水を利用した酒蔵、湧水小屋、会所、ワークショップ広場など、「水」と「ひと」の関わりから生まれる活動や機能が広がる。このドームはアーチ状のコールテン鋼により支えられるており、一部は煙突やトップライト、換気口の機能を果たすなど、意匠と機能、両面への配慮が感じ取れる。

地域への思いに溢れたテーマであること、作者の感性が、空間造形、プレゼンテーションともによく表現されていることより金賞がふさわしいと考えた。

(文責:小倉 寛征)

銀賞・炭田あすみ君

マフラーを纏うイメージから緑豊かな公園の木々に纏うスカイデッキが連想されファンタジックな世界が展開されている。都市公園にアーティストが住まう空間をつくり、まちづくりのきっかけを生み出す提案である。7階のレベルでそれぞれの建築をつなぐデッキが交流を生み出す装置になるかどうか疑問もあるが、樹木を身近に感じるための日常的ではない高さのデッキ空間は雲の上を想起させる魅力を持っている。表現手法も設計主旨を的確に表現する力量を持っており、銀賞に値すると評価した。

(文責:菅原 秀見)

#### ◆ 工業高校の部

金賞・鈴木 志穂君, 中矢 共起君, 渡辺 和樹君

滅びゆく街や商店街、ここ名寄に限ったことではない。全国、いや、全世界に拡散している。経済という名の大型商業施設が旧街をのみこむ。

しかしそれは、個商店主達の怠慢が手伝った事も確かだ。

しかしどうだろう、大型店の並ぶ街にどれだけの人々が魅力を感じていることか。

この作品は人と人との関係性をデザインしている。

街をなんとかしたいという一途な強い気持ちが前面に表れている。

清々しいこの作品に、なぜか涙が出た。

昔はこうだった、こんなこともした、思い出がよみがえる。

スクリーンだけでなく、もっと細部にまでその気持ちが深く浸透している。

(文責:中山 眞琴)

銀賞・館山真理奈君

大正時代から「函館銀座通り」は3階建の様々な洋風なデザインの建築でつくられ一大繁華街で賑わった。

本計画は、その後変わっていった街並をかつての洋風イメージとして再生し、路面の1階は現代に相応しい店舗に、2階以上を住居の職住一体とし、また家具備品は当時を想定したデザインを手掛ける事で、単に街並のファサードだけではなく人々が楽しめる生きた計画となっている。

成熟した時代の中で、街の再生においてその街の歴史を振り返る事は大切な視点であり、本計画は地域の固有性を創造する優れた内容でここに銀賞を贈る。

(文責:遠藤 謙一良)

銅賞・折尾 渉君

大学の部でも題材となっていた旭川市役所庁舎の計画であり、こちらは、新築案となっている。庁舎建築は、市民のための施設でありながら効率的なオフィス空間が求められる2面性を有することとなる。本提案では、地下1階、地上8階建の計画とし、中央に小さいながらも吹抜けを設けることで、機能的で新しい庁舎を提案している。本計画は、大きな施設に挑んだものであり、高校生の提案として高く評価された。よって、銅賞を授けるものである。

(文責:齋藤 文彦)

### 5. 3 優秀学生・生徒 (日本建築学会北海道支部賞)

2016年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

橋富 一博君・押川 快君: 北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース

田中 圭君・山本 祥暉君: 北海学園大学工学部建築学科

四戸 さき君・江刺家庸史君: 北海道科学大学空間創造学部建築学科

田口 美奈君・足立 啓輔君：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科  
 伊藤 明子君・黒川 生成君：東海大学国際文化学部デザイン文化学科  
 新谷 一朗君・勝野 貴洋君：道都大学美術学部建築学科  
 坂元 文君・上中 俊輔君：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科空間デザインコース  
 久保 元人君・綱川 智也君：釧路工業高等専門学校建築学科  
 秋山 愛斗君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科  
 高橋 諒子君：北海道職業能力開発大学校建築科  
 佐々木 凌君：北海道札幌工業高等学校建築科  
 加藤 涼君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科  
 佐藤 健太君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース  
 大山 三枝君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科  
 三浦 和寧君：北海道函館工業高等学校建築科  
 小木 昭仁君：北海道函館工業高等学校定時制建築科  
 米谷 弘斗君：北海道旭川工業高等学校建築科  
 鈴木 健君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科  
 皆川 七星君：北海道苫小牧工業高等学校建築科  
 千葉 恭弥君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科  
 茂木 良太君：北海道帯広工業高等学校建築科  
 鍛冶 優華君：北海道釧路工業高等学校建築科  
 鈴木 志穂君：北海道名寄産業高等学校建築システム科  
 斉藤 俊也君：北海道室蘭工業高等学校建築科  
 進藤 亨紀君：北海道留萌千望高等学校建築科  
 森田 悠乃君：北海道北見工業高等学校建設科

#### 5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。2016年度は、最も長きにわたり支部会員を継続された下記1社の法人・賛助会員を表彰した。今後も引き続き表彰する予定である。

東急建設(株)札幌支店

#### 5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

(1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：佐藤 孝君，委員数：13名 委員会開催数2回）  
 選考委員：支部長，学術委員会委員長，学術委員会委員の計13名

(2) 受賞者

##### ◆北海道支部技術賞

株式会社日建設計

長瀬 悟君

元株式会社日建設計

山脇 克彦君

株式会社北海道日建設計

長淵 恒夫君

小谷 卓司君

清水建設株式会社

梶波 信一君

秋山 稔君

安富 彩子君

齊藤 穰君



## 表彰技術名—トンネル工法と免震性能最大化設計による地上無補強完全使いながら免震レトロフィット技術の開発と実現

### (3) 審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部長の出席の下、支部技術賞選考部会を構成する委員の確認をし、選考部会は計2回開催した。

初回の技術賞選考部会では、応募のあった下記1件の内容について協議した。

応募された技術等の名称：「トンネル工法と免震性能最大化設計による地上無補強完全使いながら免震レトロフィット技術の開発と実現」

募集要領の選考基準には「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に基づき技術内容を把握した。

応募のあった技術は、築40年超の耐震性の低い建物の機能を維持しながら耐震改修を行う必要性が背景にあり、建物直下の支持地盤をトンネル状に掘削し、そこから免震化を行うという建物を使いながらの免震レトロフィットの実現である。

選考部会では、技術の内容に関し応募者に質問文書にて確認し、議論そして投票の結果、技術賞表彰候補とした。

上部構造の耐震補強を不要にする適度な免震設計と、建物下に掘削したトンネルを利用して段階的に基礎梁の補強とマットスラブの新設を進める新工法を組み合わせることで、建物利用を阻害しない耐震補強工事を実現した。地盤と既存建物の特性を綿密に分析した結果として編み出された工法は、免震レトロフィット技術の発展に寄与する、有効な新しい技術である。それは場所と建築の本来のあり方を求めたもので、札幌都心の地盤条件を利用した「地域性・独自性」、類似例が非常に限られるという「有効性・新規性」から高く評価された。

技術賞選考部会より、技術賞表彰候補として支部役員会に報告し、審議の結果、2016年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

(文責：佐藤 孝)

## 6. 北海道建築作品発表会の実施

### (1) 北海道建築作品発表会委員会(主査：米田 浩志君、委員数：3名、実行委員数：11名、委員会開催数：5回(実行委員会4回を含む))

2016年11月25日の発表会に向けて第36回北海道建築作品発表会委員会及び実行委員会が開催された。3名によって構成される北海道建築作品発表会委員会は1回開催され、メールによる会議を複数回行った。その後、実行委員8名が加わった実行委員会は4回開催された。

実行委員会の具体的な作業としては、各スケジュールの計画、応募要項の作成、作品の受付、プログラム編成、作品のデータ集約などである。発表会場は、例年北海道立近代美術館講堂にて開催した。

発表会当日は、第36回建築作品発表会作品集VOL-36を発刊した。また、発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2016に実行委員の山田良氏が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」に小篠隆生氏が執筆した。

### (2) 北海道建築作品発表会の開催

#### 第36回建築作品発表会の報告

期日：2016年11月25日(金曜日)

会場：北海道立近代美術館講堂

発表作品数：34作品

36回目を迎える北海道建築作品発表会は、2016年11月25日(金曜日)に開催された。会場は、北海道立近代美術館講堂、参加者総数は約300人であった。1981年に第1回目をスタートさせたこの発表会は、回数を重ねるごとに発表の内容や議論の内容が厚みを増してきていると言える。今年の発表会においても質の高い建築作品が多く発表された。この場合は、発表する建築家を中心

に建築関係者、建築学生、一般市民を巻き込みながら建築文化の向上に寄与してきた。今回の作品発表会は、発表題数が34題であった。発表会の歴史においては平均的な数とも言えるが、ここ数年間の発表数に比較すると多めの作品総数であった。また、作品の数に比例するように建築の用途が多様な拡がりを持っていた。今年の発表会のプログラムも例年通り三部構成で、1部と2部は各作品のスライドを交えた口頭発表、そして3部はフォーラムとして位置付け全体の作品を集約し意見交換を行った。このフォーラムは、作品発表会において特に重要な目的性を有しており、作品の規模や用途を越えた共通点等を見出すことができる貴重な建築批評の場になっている。毎年このフォーラムがあることよって、全体を通した建築作品の動向が顕在化され、そして発表者とオーディエンスとの間に対話が生まれる。作品発表会は、北海道の建築シーンにおいて極めて意義深いステージであると改めて強調することができる。

## 7. 特別委員会

### 7. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業系担当常議員）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中での可能な連携がとられ、活動に関し役員会への報告を行っている。本年度についても建築文化週間として北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施され印刷物やHPで公表されている。また、建築作品発表会は作品集の刊行、卒業設計審査委員会からは入選作品のHP掲載がされるなど公表されている。

### 7. 2 総務委員会（委員長：白井 和貴君，担当常議員，委員会開催数1回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

日本建築家協会北海道支部との連携に関しては、合同委員会（1回）を開催して、両団体の活動に関する情報交換を行った。

### 7. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎君，幹事：斉藤 雅也君，委員数：2名，メール等による情報交換を数回実施）

2016年度は以下を実施した。

- 1) 北海道支部ウェブサイトの全面更新を行った。
- 2) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なった。
- 3) イベント周知、報告等のFacebookページの更新作業を行った。
- 4) 北海道支部研究報告会投稿ページの見直しを行った。

### 7. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：谷口 円，委員数：10名，委員会開催数：3回）

準備会を含む3回の委員会を開催した。

女性会員の会の在り方について議論を行い、委員を人選した。

また、今後の委員会の活動方針を以下の通り決定した。

- ・建築女子 café の名称のもと、交流活動（茶話会，納涼交流会）を行う
- ・フェイスブックの支部ページ活用による情報発信を行う

## 8. 講習会・シンポジウム等の開催

### 8. 1 講習会

#### (1) 本部主催講習会

該当なし

#### (2) 支部委員会主催講習会（セミナー）

該当なし

### 8. 2 講演会

#### (1) 本部主催講演会

該当なし

#### (2) 支部主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2016. 6. 25	支部研究発表会特別企画会長支部訪問 記念講演会「建築としての声を一つに」	北海道職業能力開 発大学校	中島 愛正	100名
10. 28	建築文化週間「第41回北海道建築賞表 彰式・記念講演会」	北海道大学遠友学 舎	川人 洋志 他2名	約80名
11. 25	第36回北海道建築作品発表会	北海道立近代美術 館大講堂	作品数34点	約300名
12. 7	「北のすまい-その特長を広い視点から 考えよう-」	北海道函館工業高 等学校	真境名達哉	80名
12. 21	「現場監督の仕事」～その魅力と最新の 現場管理」	北海道札幌工業高 等学校	雁部 剛志	84名

#### (3) 支部委員会主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者 数
2016. 6. 17	「コラボレーションの時代 専門家間 の「創造的協働関係を確立する時代 へ」講演会及びパネル展 (構造専門委員会)	北海道大学 B1 棟 B11	渡辺 邦夫	89名
9. 27 10. 28 11. 29	「連続企画「私の職能」講演会 (都市計画専門委員会)	ドーコン本社ビル 会議室 北海道日建設計会 議室 千歳市民センター	生沼 貴史 平下 貴博 倉重 祐泰	21名 22名 9名
10. 22	建築文化週間「くしろ防災屋台村」 (都市防災専門委員会)	釧路市内	委員会委員	348名
10. 27	「建築のタイプの歴史」講演会 (歴史意匠専門委員会)	北海道大学 D 棟ム ツミホール	越野 武	35名
11. 11	「構造設計者がデザインできること」 講演会 (構造専門委員会)	北海道大学工学部 オープンホール	徳淵 正毅	89名

2017. 3. 9	第 11 回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs16 (環境工学専門委員会)	札幌市立大学サテ ライトキャンパス	発表題数 24 題	70 名
2. 3 ～3. 31	「北海道の住宅の歩み」パネル展 (北方系住宅専門委員会)	北海道博物館		6300 名

### 8. 3 見学会

開催日	見 学 場 所	解説者	参加者数	主 催
2016. 7. 25	「札幌創世 1. 1. 1 区北 1 西 1 地区市 街地再開発事業」見学会	現場担当者	12 名	構造専門委員会 材料施工専門委員会
8. 10	「札幌創世 1. 1. 1 区北 1 西 1 地区市 街地再開発事業」見学会その 2	現場担当者	17 名	構造専門委員会 材料施工専門委員会
10. 8	「建築散歩－毛綱建築を楽しむ」	委員会委員	41 名	歴史意匠専門委員会
11. 12	2016 これからの住まいと暮らしを 考える住宅見学会	藤島 喬	15 名	北方系住宅専門委員会 環境工学専門委員会 建築計画専門委員会

### 8. 4 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2016. 5. 18～20 6. 3～4 12. 12～15	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	128 名 180 名 120 名
7. 4～ 12. 12	道内工業高校卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11 校	合計 1500 名

## 9. 本部関連事業・その他

### 9. 1 2016 年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会 (主査：山田 良君, 委員数：5 名, 委員会開催数：1 回)

支部審査員：

主 査： 山田 良君

委 員： 赤坂 真一郎君, 久野 浩志君, 小西 彦仁君, 山之内 裕一君

#### (2) 審査講評

委員会活動として設計競技審査会を 2016 年 7 月 13 日、午後 6 時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「残余空間に発見する建築」であり、6 案の応募があった。5 名の委員全員による議論および審査を経て 2 案を支部入選案として決定した。支部入選案 2 案は、残念ながら全国審査で入選を果たせなかった。また今後の応募数増加を期待したいところである。

#### 2016 年度支部共通設計競技「残余空間に発見する建築」審査評

設計競技審査会を 2016 年 7 月 13 日、18 時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「もう一つのまち・もう一つの建築」であり、

6 案の応募があった。5 名の委員全員による活発な討議を経て 2 案を支部入選案として決定した。支部入選案 2 案は、残念ながら全国審査で入選を果たせなかった。今後の進展を期待したい。以下に支部入選作 2 案の審査評を記す。

「共生林 ー防風林と共にある棲まいー」  
岩国大貴・佐藤凌（北海道大学大学院）案

都市化が進む札幌市において、今後残余空間として取り残されていくであろう防風林に着目した住戸群の提案である。防風林から恩恵を得るだけでなく、建築によって防風林を守り育てていくことも視野に入れ、防風林と建築がつくる共生のかたちを表現している。都市の残余空間に建築を挿入することで、新たな残余空間を作り出すことに留まっている提案が多いなか、残余空間との呼応関係に新たな建築の概念を発見しようとしている点で、課題の解釈が独創的かつ巧みであるというのが入選の理由である。自律した世界を都市のなかに唐突に置いてしまうのではなく、様々な関係性を可視化することではじめて浮かび上がってくる建築の姿の片鱗が見える。

（文責：久野浩志）

「“生態系の保管庫”」  
高嶋健伍・久野建（室蘭工業大学）案

明治期、北海道の原生林に街区グリッドを重ね開拓が始まる都市・札幌。以来、街区グリッドは無限に成長を続け、原生林の潜在力が薄れていく端から都市の問題が露呈する。提案は、都市を街区グリッドと原生林の相関と定義。街区グリッドは近代の別名、原生林は人間の影響を受けず畏怖され安らぎを与える残余空間そのものだ。しかし都市の現状は、原生林は消失し街区グリッドのみが錯綜する判読困難な状態。そこで、周縁の原生林を都市の中心に保管、土地の潜在力を呼び起こすと共に人間に必要な意味を取り戻す。提案は、自然植生を内包する壁を構築し、都市公園としての利用を期待する。自然と人工の境界を軽々と跳躍していくその構想スケールを評価した。

（文責：山之内裕一）

## 9. 2 作品選集支部選考の実施

### （1）作品選集支部選考部会活動報告（主査：山田 良君：委員数 6 名：委員会開催数 2 回及び現地審査）

2016 年度応募数 8 作品に対して、応募書類による第一次選考委員会の結果 6 作品が現地審査対象作品に該当すると判断した。各審査委員分担のうえ 8 月 6 日から 8 月 10 日の 5 日間に分けて現地審査を行った。8 月 10 日に第二次選考委員会を開催し、最終的に 4 作品を選考し本部へ推薦した。

支部審査員：

主 査：山田 良君

委 員：加藤 誠君、齊藤 雅也君、田川 正毅君、西村康志郎君、堀尾 浩君

### （2）作品選集支部選考の結果

北海道支部応募作品数 8 点

支部選考通過（本部へ推薦）作品数 4 点

本部採用・作品選集掲載作品数 2 点

- ・豊富町定住支援センター（作品選集掲載作品）
  - 加藤誠君 : (株)アトリエブंक
  - 金箱温春君 : 金箱構造設計事務所
  - 瀬戸口剛君 : 北海道大学

- ・中の沢川の家（作品選集掲載作品）  
山田 良君 : 札幌市立大学デザイン学部

### 9. 3 建築文化週間

- ①テーマ：「建築散歩～毛綱建築を楽しむ」  
主 催：日本建築学会北海道支部  
日 時：2016. 10. 8（土）  
場 所：釧路市立博物館、釧路湿原展望台ほか  
講 師：支部歴史意匠専門委員会委員  
参加対象：学会員、地域一般市民、市町村職員、建築技術者、学生  
参加者：101名
- ②テーマ：「くしろ防災屋台村」  
主 催：日本建築学会北海道支部  
共 催：北海道釧路総合振興局  
日 時：2016. 10. 22（土）  
場 所：釧路市子ども遊学館  
参加対象：学会員、地域一般市町村民（親子）、行政職員、学生  
参加者：348名
- ③テーマ：第41回（2016年度）北海道建築賞表彰式・記念講演会  
主 催：日本建築学会北海道支部  
日 時：2016. 10. 28（金）  
講 師：川人洋志「新得町都市農村交流施設カリンパニ」の設計（第41回北海道建築賞）  
菊池規雄「日本基督教団真駒内教会の設計（第41回北海道建築奨励賞）」  
鈴木 理「ときわの家」の設計（第41回北海道建築奨励賞）  
場 所：北海道大学遠友学舎  
参加対象：学会員、一般市民、建築関係者、学生  
参加者：約80名

## 10. 建築関連団体との活動

### 10. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8名，開催数：1回）

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。

### 10. 2 北海道建築設計会議（幹事会開催数：12回）

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、吉田栄一君と高松圭君の2名を参加させた。幹事会においては、各団体の法人化等について情報交換や意見交換を行った。

## 12. 共催・後援

期 日	名 称	会 場	主 催
応募締切 2016. 8. 8	第41回「北の住まい」住宅設計コンペ		(一社) 北海道建築士事務所協会
9. 17	平成28年度第1回都市地域セミナー 「文化遺産を活用した“イベントとまちづくり”」	小樽市公会堂	(公社) 日本都市計画学会 北海道支部
9. 24	コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座 大学から実務者へ～技術情報の発信と情報交換～	ホテルリソル函館	(公社) 日本コンクリート 工学会
10. 29	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部研究発表会	北海道大学人文社会科学総合教育研究棟共同講義室	
11. 1 ～11. 2	サステイナブルキャンパス国際シンポジウム2016	北海道大学学術交流会館	北海道大学
11. 18	「北海道大学まちづくりフォーラム」	北海道大学工学部 フロンティア応用科学研究棟	北海道大学まちづくりフォーラム実行委員会
12. 14	「地中熱利用の最前線」	北海道大学工学部 フロンティア応用科学研究棟	(公社) 空気調和・衛生工学会 北海道支部
登録締切 2017. 2. 15	「JIA 北海道建築大賞2016」		(公社) 日本建築家協会 北海道支部
2. 18	第27回旭川建築作品発表会	旭川市科学館 「サイパル」	旭川まちなみデザイン推進委員会
2. 28	平成28年度第2回都市地域セミナー 「旭川中心市街地におけるイベントと地域活性化」	TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前ライラック	(公社) 日本都市計画学会 北海道支部
3. 15	「セメント系固化材の利活用セミナー」	ホテルポールスター札幌	(一社) セメント協会
登録締切 5. 17	第8回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ		(公社) 日本建築家協会 北海道支部

## II 2016年度収支決算報告

### 2016年度 貸借対照表

2017年 3月31日現在							
科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
I 流動資産				I 流動負債			
現金預金	2,422,457	2,752,993	△330,536	未払金	0	0	0
未収金	0	0	0	前受金	12,000	14,000	△2,000
前払金	168,684	168,684	0	預り金	21,539	19,973	1,566
仮払金	28,364	33,214	△4,850	仮受金	584,629	582,411	2,218
				賞与引当金	0	0	0
流動資産合計	2,619,505	2,954,891	△335,386	流動負債合計	618,168	616,384	1,784
2 固定資産				2 固定負債			
(1) 基本財産	0	0	0	退職給付引当金	960,000	900,000	60,000
基本財産合計	0	0	0	固定負債合計	960,000	900,000	60,000
(2) 特定資産				負債の部合計	1,578,168	1,516,384	61,784
学術振興基金引当資産	4,760,000	5,150,000	△390,000	III 正味財産の部			
災害調査研究基金引当資産	1,900,000	1,900,000	0	I 指定正味財産			
支部基金引当資産	2,610,000	2,610,000	0	指定正味財産合計	0	0	0
退職給付引当資産	960,000	900,000	60,000	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
特定資産合計	10,230,000	10,560,000	△330,000	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(3) その他の固定資産				2 一般正味財産	11,832,887	12,560,057	△727,170
敷金	561,550	561,550	0	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
その他の固定資産合計	561,550	561,550	0	(うち特定資産への充当額)	(9,270,000)	(9,660,000)	(△390,000)
固定資産合計	10,791,550	11,121,550	△330,000	正味財産合計	11,832,887	12,560,057	△727,170
資産の部合計	13,411,055	14,076,441	△665,386	負債及び正味財産合計	13,411,055	14,076,441	△665,386



## 2016年度 正味財産増減計算書

2016年 4月 1日から 2017年 3月31日まで

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
<b>I. 一般正味財産増減の部</b>							
<b>1. 他会計振替額</b>							
交付金収入	(6,699,000)	(6,682,000)	(17,000)				
支部費	1,694,000	1,669,000	25,000				
支部経営助成費	1,800,000	1,800,000	0				
事業促進費	300,000	300,000	0				
支部研究補助費	200,000	200,000	0				
教育文化事業交付金	534,000	542,000	△8,000				
大会交付金	0	0	0				
支部事務費	300,000	300,000	0				
支部事務所費	1,871,000	1,871,000	0				
他会計からの振替額計	6,699,000	6,682,000					
<b>2. 経常増減の部</b>							
[1] 経常収益				[2] 経常費用			
(1) 実施事業会計	(885,000)	(175,000)	(710,000)	(1) 実施事業会計	(2,210,294)	(1,701,821)	(508,473)
表彰・顕彰事業	(885,000)	(175,000)	(710,000)	調査研究事業	(558,948)	(598,337)	(△39,389)
表彰関係	885,000	175,000	710,000	調査研究事業	558,948	598,337	△39,389
(2) その他会計	(2,137,824)	(2,092,902)	(44,922)	表彰・顕彰事業	(1,317,818)	(762,044)	(555,774)
研究会事業	(2,137,824)	(2,092,902)	(44,922)	表彰関係	1,314,816	757,554	557,262
支部研究発表会	1,074,668	1,019,528	55,140	設計競技	3,002	4,490	△1,488
建築作品発表会	1,052,756	1,048,374	4,382	社会対応事業	(333,528)	(341,440)	(△7,912)
過年度研究会事業	10,400	25,000	△14,600	文化事業	307,256	323,664	△16,408
大会事業	0	0	0	展示会事業	26,272	17,776	8,496
(3) 法人会計	(115,206)	(159,746)	(△44,540)	(2) その他会計	(2,157,076)	(1,965,484)	(191,592)
特定資産運用益	(3,167)	(2,758)	(409)	研究会事業	(2,157,076)	(1,965,484)	(191,592)
特定資産受取利息	3,167	2,758	409	支部研究発表会	892,892	784,104	108,788
雑収益	(112,039)	(156,988)	(△44,949)	建築作品発表会	1,264,184	1,181,380	82,804
受取利息	39	978	△939	大会事業	0	0	0
雑収益	112,000	156,010	△44,010	(3) 法人会計	(6,196,830)	(5,866,670)	(330,160)
				支部運営	(285,904)	(282,790)	(3,114)
				支部総会	250,308	264,154	△13,846
				支部役員会	13,716	18,636	△4,920
				選挙管理委員会	0	0	0
				その他運営費	21,880	0	21,880
				支部事務運営	(5,910,926)	(5,583,880)	(327,046)
				給与手当	2,130,700	1,850,690	280,010
				退職給付費用	60,000	60,000	0
				法定福利厚生費	357,043	323,637	33,406
				福利厚生費	29,815	23,620	6,195
				通勤手当	176,040	176,040	0
				旅費交通費	7,410	12,930	△5,520
				通信回線費	121,022	124,660	△3,638
				発送運搬費	24,069	34,570	△10,501
				消耗品費	118,175	34,960	83,215
				印刷費	61,946	54,142	7,804
				支払手数料	31,752	27,540	4,212
				賃貸料	144,720	141,840	2,880
				地代家賃	2,024,208	2,024,208	0
				水道光熱費	547,013	537,610	9,403
				雑費その他	77,013	157,433	△80,420
経常収益計	3,138,030	2,427,648	710,382	経常費用計	10,564,200	9,533,975	1,030,225
当期経常増減額	△7,426,170	△7,106,327	△319,843				
当期一般正味財産増減額	△727,170	△424,327	△302,843				
一般正味財産期首残高	12,560,057	12,984,384	△424,327				
一般正味財産期末残高	11,832,887	12,560,057	△727,170				
<b>II. 指定正味財産増減の部</b>							
指定正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)				
<b>III. 正味財産期末残高</b>							
	11,832,887	12,560,057	△727,170				

2016年度 正味財産増減計算書（決算-予算対比）

2016年4月1日 ～ 2017年3月31日

一般社団法人 日本建築学会 北海道支部

科 目	予算額	決算額	差異
I. 一般正味財産の部			
1. 他会計振替額			
交付金収入	(6,601,000)	(6,699,000)	(▲ 98,000)
支部費収入	1,590,000	1,694,000	▲ 104,000
経営助成費収入	1,800,000	1,800,000	0
事業促進費収入	300,000	300,000	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0
教育文化事業交付金収入	540,000	534,000	6,000
支部事務費収入	300,000	300,000	0
支部事務所費収入	1,871,000	1,871,000	0
他会計からの振替額計	6,601,000	6,699,000	▲ 98,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(325,000)	(885,000)	(▲ 560,000)
表彰・顕彰事業	(325,000)	(885,000)	(▲ 560,000)
表彰関係	325,000	885,000	▲ 560,000
その他会計	(2,160,000)	(2,137,824)	(22,176)
研究集会事業	(2,160,000)	(2,137,824)	(22,176)
支部研究発表会	1,080,000	1,074,668	5,332
建築作品発表会	1,080,000	1,052,756	27,244
過年度研究集会事業	0	10,400	▲ 10,400
法人会計	(126,000)	(115,206)	(10,794)
特定資産運用益	5,000	3,167	1,833
特定資産受取利息	5,000	3,167	1,833
雑収益	(121,000)	(112,039)	(8,961)
受取利息	1,000	39	961
雑収益	120,000	112,000	8,000
経常収益計	2,611,000	3,138,030	▲ 527,030
実施事業会計	(2,210,000)	(2,210,294)	(▲ 294)
調査研究事業	(740,000)	(558,948)	(181,052)
調査研究事業	740,000	558,948	181,052
表彰・顕彰事業	(1,040,000)	(1,317,818)	(▲ 277,818)
表彰関係	1,000,000	1,314,816	▲ 314,816
設計競技	40,000	3,002	36,998
社会対応事業	(430,000)	(333,528)	(96,472)
文化事業	400,000	307,256	92,744
展示会事業	30,000	26,272	3,728
その他会計	(2,060,000)	(2,157,076)	(▲97,076)
研究集会事業	(2,060,000)	(2,157,076)	(▲97,076)
支部研究発表会	980,000	892,892	87,108
建築作品発表会	1,080,000	1,264,184	▲ 184,184
法人会計	(6,152,000)	(6,196,830)	(▲ 44,830)
支部運営	(310,000)	(285,904)	(24,096)
支部総会	250,000	250,308	▲ 308
支部役員会	40,000	13,716	26,284
選挙管理委員会	2,000	0	2,000
その他の運営費	18,000	21,880	▲ 3,880
支部運営(非課税)	(5,842,000)	(5,910,926)	(▲ 68,926)

科 目	予算額	決算額	差異
給与手当	2,000,000	2,130,700	▲ 130,700
退職給付費用	60,000	60,000	0
法定福利費	325,000	357,043	▲ 32,043
福利厚生費	25,000	29,815	▲ 4,815
通勤手当	176,000	176,040	▲ 40
旅費交通費	30,000	7,410	22,590
通信回線費	125,000	121,022	3,978
発送運搬費	34,000	24,069	9,931
消耗品費	50,000	118,175	▲ 68,175
印刷費	100,000	61,946	38,054
支払手数料	30,000	31,752	▲ 1,752
賃借料	145,000	144,720	280
地代家賃	2,024,000	2,024,208	▲ 208
水道光熱費	648,000	547,013	100,987
雑費その他	70,000	77,013	▲ 7,013
経常費用計	10,422,000	10,564,200	▲ 142,200
当期経常増減額	▲ 1,210,000	▲ 727,170	▲ 482,830
当期一般正味財産増減額	▲ 1,210,000	▲ 727,170	▲ 482,830
一般正味財産期首残高	12,984,000	12,560,057	423,943
一般正味財産期末残高	11,774,000	11,832,887	▲ 58,887
指定正味財産期末残高			
正味財産期末残高	11,774,000	11,832,887	▲ 58,887

## 監査報告

2016 年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2017 年 4 月 25 日

支部監事 \_\_\_\_\_

支部監事 \_\_\_\_\_

### Ⅲ 2017 年度事業計画方針案

#### 1. 活動方針

北海道は独特の気候、風土をもち、激変する社会環境の中で建築や都市の課題に対応するため、地域性、場所性を認識し、学術、産業において、領域を超えた議論や交流がなされることが大切である。北海道支部が、その拠点としての役割を果たすことを、活動方針とする。

##### (1) 支部活動の活性化と財政の強化

建築学会における支部の存在の重要性とともに、慢性的な支部財源の逼迫による支部運営への影響が出ている。これに関しては、理事会、支部長会議では支部費配分額の見直しがあったが、今後も継続課題としてゆく。

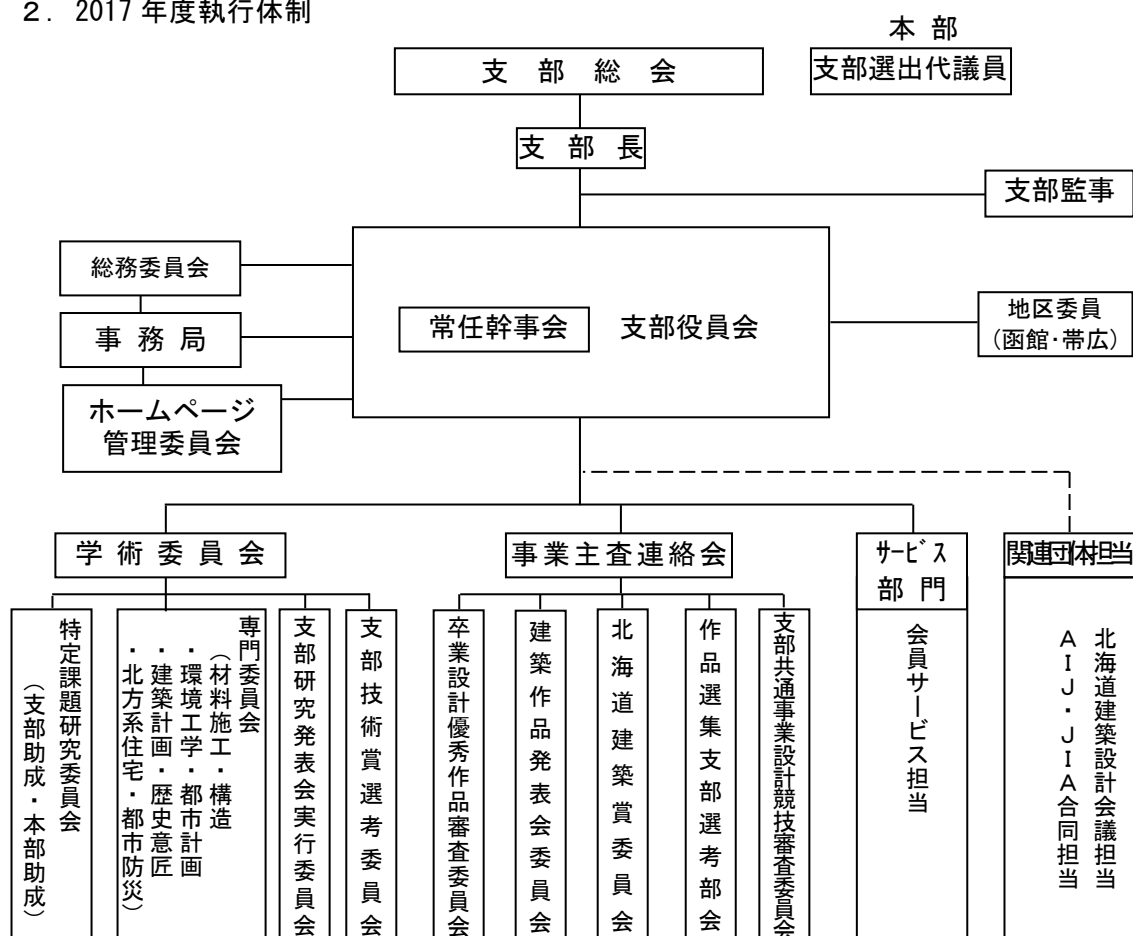
支部技術賞、支部研究発表会での若手発表者の顕彰また支部研での企業参加のパネル展を、研究活動の活性とともに支部活動の活性化に役立ててゆく。

日本建築学会「女性会員の会」は、学会男女参画推進委員会から建築分野で働く女性会員の意見交換や社会へ出てゆく女子学生との交流と提言を目的とし、北海道支部にあつては「建築女子 café」の名称のもと、2017 年度、建築分野の女性活用の先進性を生かしたネットワークのありかたなどをテーマに活動を進める。

##### (2) 支部の情報発信

支部ホームページは、本部と連動しながらもブログツールや Facebook などを用いた支部独自の HP がスタートした。今後、情報の相互発信による会員活動の活性化をうながしたい。

#### 2. 2017 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2016.6.1~2018.5.31)

福島 明君 北海道科学大学教授

新任常議員(2017.6.1~2019.5.31)

久新信一郎君 岩田地崎建設(株)第二営業部次長  
鈴木 理君 (株)鈴木理アトリエ一級建築士事務所代表取締役  
※西村康志郎君 北海道大学准教授  
※羽石 彰夫君 清水建設(株)北海道支店設計部部長  
村田さやか君 (独)北海道立総合研究機構連携推進部連携推進グループ主査  
米田 浩志君 北海学園大学教授  
渡邊 純一君 北海道建設部住宅局住宅課主幹  
(※印 常任幹事)

新任常議員は、支部役員選挙開票(2017年4月12日)により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印 委員長)

☆魚住 昌広君, 大條 雅昭君, 小倉 寛征君, 金田亮太郎君, 前田憲太郎君,

留任常議員(2016.6.1~2018.5.31)

小倉 寛征君 (株)エスエーデザインオフィス一級建築士事務所代表取締役  
金田亮太郎君 大成建設(株)札幌支店建築部作業所長  
河合 有人君 (株)竹中工務店北海道支店設計部部長  
後藤孝一朗君 (株)北海道日建設計業務推進部主任  
佐伯 健一君 北海道札幌工業高校建築科教諭  
※前田憲太郎君 北海道科学大学准教授  
吉野 利幸君 (一社)北海道建築技術協会専務理事  
(※印 常任幹事)

新任代議員 (2017.4.1~2019.3.31)

菊地 優君 北海道大学教授  
佐藤 孝君 北海道科学大学教授  
(2017年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出)

留任代議員 (2016.4.1~2018.3.31)

串山 繁君 北海学園大学教授  
下村 憲一君 北海道科学大学客員教授

新任支部監事 (2017.6.1~2019.5.31)

半澤 久君 北海道科学大学名誉教授  
(2017年4月の支部役員会で選出)

留任支部監事 (2016.6.1~2018.5.31)

本井 和彦君 (株)竹中工務店北海道支店設計部設計グループ副部長

地区委員 (2017.6.1~2018.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰  
函館地区委員 山本 真也君 元函館市教育委員会教育長

### 3. 支部運営の諸会合の開催

- ◆ 総会  
期日 2017年5月19日(金)  
会場 北海道建設会館
- ◆ 支部役員会 (複数回)
- ◆ 常任幹事会 (複数回)
- ◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

### 4. 学術系委員会

#### 4. 1 学術委員会 (主査：岡本 浩一君, 委員数：14名, 委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画および活動の報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認(技術パネル展の企画・運営)、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業の募集と選考、北海道支部技術賞の募集と支部技術賞選考委員会の設置による選考、道内工業高校巡回講演会への講師派遣を行なう。その他、事業主査連絡会との横断的な連携をはかる。

第1回：本部学術推進委員会の報告。支部研究発表会の報告。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間事業の募集。特定課題研究の募集。

第2回：支部研究発表会に関連する内容の審議。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間企画および特定課題研究の承認。支部技術賞の募集。

第3回：本部学術推進委員会の報告。次年度の支部研究発表会の企画、各専門委員会・研究委員会の活動報告。支部技術賞選考委員会の設置。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。各専門委員会・研究委員会の活動報告。特定課題研究の結果報告。支部技術賞選考委員会による支部技術賞の表彰候補の選考。

なお、特定課題研究委員会は、

(継続)「戦前馬産地の建築研究委員会」主査：西澤岳夫 2016-17

(新規)「寒中コンクリート新技術調査研究委員会」主査予定：濱 幸雄 2017-18

#### 4. 2 専門委員会

##### ◆材料施工専門委員会 (主査：杉本 雅君, 委員数：25名, 委員会開催数：3回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施行現場や特色ある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 支部特定課題研究委員会の活動
- ・ 勉強会(話題提供)
- ・ 見学会の開催、等

##### ◆構造専門委員会 (主査：飯場 正紀君, 委員数：22名, 委員会開催予定数：2回)

各種行事を企画して道内における構造分野の研究者・技術者との情報交換を行い、構造に関する研究調査を推進する。また、構造分野において、若手会員の学会活動への参加を支援する。主な活動予定は次のとおりである。

1) 構成委員数は22名。

- 2) 委員会は2回(6月, 12月), 幹事会は2回(9月, 3月)の開催を予定し, 必要に応じて通信会議を開く。
- 3) 講演会・講習会は, 2回(随時)開催する。
- 4) 見学会は, 建築物(施工中も含む)等を対象に2回程度(随時)実施する。
- 5) 勉強会は, 委員会開催時に構造に関わらず幅広い分野を対象に行う。

◆**環境工学専門委員会** (主査: 岸本 嘉彦君, 委員数: 18名, 委員会開催予定数: 4回)

2016年度は以下の活動を予定している。

- 1) 学位を取得した若手研究者の研究発表の機会を設け, 最新の研究動向を把握する。
- 2) 環境建築, 最新の設備技術を駆使している建築の見学会を実施する。北方系住宅専門委員会と連携して共催による見学会を実施する。
- 3) 「第11回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs' 16 (会場: 未定)」の開催を支援する。
- 4) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催 地区講演会ほか, 本委員会の関係組織が主催する講演会, セミナー等を支援する。

◆**建築計画専門委員会** (主査: 真境名達哉君, 委員数: 11名, 委員会開催予定数: 2回)

構成委員数11名, 委員会開催数2回程度, 見学会なども2回程度行う。北海道の建築計画(学)分野にかかわる新しい課題の把握, 加えて精力的に社会貢献活動の展開を目指す。本年度の活動計画として大きくは, オリンピック・パラリンピックに関する建築に関連する計画課題を抽出し, 建築計画的な課題解決の方策を考察する。またこれらの成果は, 公開研究会として積極的に公に開いていきたい。

◆**都市計画専門委員会** (主査: 岡本 浩一君, 委員数: 12名, 委員会開催予定数: 7回)

2017年度の委員会活動は, 2016年度に始めた連続企画「わたしの職能」の継続が中心となる。4~7月と9~11月に, 月1回のペースで計7回の連続企画を開催する。既に各開催月で講師を担当する委員は決定済である。都市計画実務, まちづくり実践, 地域活動報告, 再開発事業解説, 都市土木計画等, 委員構成の特性が活きる幅広い話題が用意できている。更に多くの学生や若手実務者および専門家に参加いただけるよう, 周知の方法を見直して工夫する。また, 半数以上の委員が順番を終える予定であることから, 年末を目処に連続企画について振り返りを行い, 2018年度の活動について検討する。

◆**歴史意匠専門委員会** (主査: 西澤 岳夫君, 委員数: 16名, 委員会開催予定数: 4回)

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め, 保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い, 必要に応じて学会として委託研究を含め社会や住民に貢献する体制を整備する。具体的には, 建築文化週間事業として, 見学会「鉄のまち室蘭の原点を巡る」を10月14日に開催する予定であり, その他昨年度に引き続き道内戦前馬産地における歴史的建造物の調査を行う。

◆**北方系住宅専門委員会** (主査: 立松 宏一君, 委員数: 11名, 委員会開催予定数: 3回)

本委員会では次の活動を予定している。

- 新たな地域住宅像形成に向けた取り組みについて検討を進めるため, 年3回の委員会を開催する。
- 1) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会(第10回)を実施する。
  - 2) 北海道支部研究発表会の特別企画について, 他専門委員会とも協力して企画, 実施する。
  - 3) 北海道の住宅歴史の「北海道の住まいの歩み」パネル展について, 2016年度までに開催した大学以外及び各種団体と協力し開催を検討する。
  - 4) 本委員会の役割について, 道の住宅施策等の情報も得ながら議論し, 今後の研究・活動方針についてまとめる。

◆**都市防災専門委員会** (主査: 麻里 哲広君, 委員数: 18名, 委員会開催予定数: 2回)

委員相互の連携, 防災関係機関との連携, 他学協会との連携, 地域との連携を強化するとともに, 次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を進める。



## ■主な活動事業

- 1) 建築文化週間事業「地震防災体験学習」への支援（10月頃を予定）。
- 2) 構造専門委員会等との共催による見学会、講習会の実施。
- 3) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。
- 4) 各種防災イベントへの協力

### 4. 3 特定課題研究委員会

(2016年度より)

#### ◆戦前馬産地の建築研究委員会（主査：西澤 岳夫君，委員数：16名 委員会開催予定数：複数回）

北海道における戦前馬産地の建築とその変遷に関する基礎的な研究を行う。

### 4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2017年度より)

#### ◆寒中コンクリート新技術調査研究委員会（主査：濱 幸雄君，委員数：5名， 委員会開催予定数：複数回）

寒中コンクリート新技術の動向調査を以下の項目を中心にアンケート調査と現場計測等を交えた調査を行う。

- ・寒中コンクリート支援ソフトの利用状況
- ・養生計画・手法の調査
- ・寒冷度の指標を活用した氷点下養生計画の実施状況
- ・耐寒促進剤の利用状況

## 5. 支部研究発表会

### 5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：岡崎太一郎君，幹事：真境名達哉君，委員数17名， 委員会開催予定回数：5回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、下記を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程と会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 建築学会 HP 論文検索システムに対応するための電子投稿時記載事項の改善
- 4) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 5) 特別企画の実施および技術パネル展開催の支援
- 6) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 7) 支部研究報告集（冊子および CD-ROM）の作成および発行
- 8) 支部研究発表会の実施
- 9) 優秀講演奨励賞の選定・授与

支部研究発表会の実施

第90回北海道支部研究発表会

日時：2016年6月24日（土）一般研究発表会、特別企画、技術パネル展

場所：国立大学法人 室蘭工業大学（室蘭市）

懇親会：講演会終了後に室蘭工業大学キャンパス内にて開催予定

原稿提出締切：2016年4月13日（木）17:00（電子投稿受付）

発表登録システム HP：[http://regist.hokkaido.seikyou.jp/aij/entry/thesis\\_entry.php](http://regist.hokkaido.seikyou.jp/aij/entry/thesis_entry.php)

支部研究報告集（冊子および CD-ROM）No. 90 を発行

## 6. 表彰

### 6. 1 北海道建築賞（主査：山田 深君，委員数：7名，委員会開催予定数：複数回）

#### （1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

#### （2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第42回北海道建築賞の応募期間：2017年4月17日（月）～5月15日（月）
- 2) 審査期間：5月上旬（応募状況確認および応募推薦作品の選定）～6月中旬（書類審査）～7・8月（現地審査）～9月上旬（最終選考）
- 3) 結果発表：9月下旬
- 4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会：10月27日（金）予定

#### （3）委員構成

昨年度から1名の委員を交代し、以下の委員により委員会運営を行う。

山田深（室蘭工業大学：主査）、赤坂真一郎（アカサカシンイチロウ・アトリエ）、小篠隆生（北海道大学）、海藤裕司（山下設計北海道支社）、佐藤孝（北海道科学大学）、柴田尚（特定非営利活動法人S-AIR）、福島明（北海道科学大学）

### 6. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）（主査：菅原 秀見君，委員数：6名，委員会開催予定数：1回）

#### （1）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

#### （2）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2017年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2016年度と同様、2017年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

### 6. 3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

### 6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

### 6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

## 7. 北海道建築作品発表会

### 7. 1 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田 浩志君，委員数：4名，実行委員数：11名 委員会開催数：5回（実行委員会4回を含む））

2017年度は、建築作品発表会が第37回を迎える。昨年に引き続き充実した発表の場にしたい。また、発表会の後半に企画しているフォーラムを発展させながら、さらに活発な議論が生じるような場を検討して行きたい。建築作品発表会の過去三十数年は北海道建築の質の向上に積極的に寄与してきた。その歴史的事実を再確認しながら、今後の発表会への橋渡しをすべく37年目の発表会用プログラムを検討していきたい。尚、例年通り建築作品発表会作品集を発行する予定である。

### 7. 2 第37回北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬

作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬

作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬

作品発表会開催場所：北海道立近代美術館講堂（予定）

## 8. 特別委員会

### 8. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員， 予定開催数：複数回）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中で、適宜事業を把握し、役員会へ報告提案をおこなう。それぞれの事業は印刷物やHPで公表するとともに支部事業の活性化を検討する。

### 8. 2 総務委員会（委員長：白井 和貴君，担当常議員，委員会開催予定数：1回）

委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2017年度）

委員長：白井 和貴君 北海道大学

委員： 担当常議員

### 8. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎君，委員数：2名，委員会開催予定数：複数回）

2017年度は以下の活動を予定している。

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
- 2) Facebook ページへのイベント周知，報告を行う。
- 3) 各委員会ページ等の運用方法について検討を行う（2016年度に実施予定だったが実施できなかった）。
- 4) 会議資料等のアーカイブ手法の検討

### 8. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：谷口 円，委員数：11名 委員会開催予定数：複数回）

交流イベント（学生-社会人）、プチ建築女子 café の企画立案を行う。  
・支部女性会員の会委員に（仮称）女子 café メイツ（本活動に興味のある若手社会人、学生）  
・6月中、中山眞琴氏設計の自社ビルを会場とし、交流会を開催予定。  
さらに、建築分野の女性活用の先進性を生かしたネットワークのありかたについて、若手、学生も交え意見交換を継続する。

## 9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

### 9. 1 本部主催講習会

2017年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

### 9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

### 9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

### 9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

## 10. 本部関連事業・その他

### 10. 1 2017年度支部共通事業設計競技の実施（主査：山田 良君，委員数：5名，委員会開催予定数：1回）

2017年度設計競技審査委員会は、主査：山田良，委員：赤坂真一郎，久野浩志，小西彦仁，山之内裕一の5名で行う予定である。

2017年度の課題は「地域の素材から立ち現れる建築」と決定され、7月中に支部審査を1回行う予定である。

2016年度の応募総数は6案で、前回は応募作品数と同じであった。近年は道外からの応募も見受けられる。今後の応募数増加を期待したい。

### 10. 2 作品選集支部選考部会（主査：田川 正毅君，委員数：6名，委員会開催予定数：2回及び現地審査）

2016年度の応募総数は前年度から一点増え8作品であり、内訳は住宅・居住施設2点、集会・拠点施設2点、研究施設1点、教育・保育施設1点、業務施設1点、商業施設1点であった。

全国の応募総数が歴代3位の397点であったことに比べれば、これまでと同様北海道支部の応募を積極的に募ることが求められる。また、現地審査は最も重要な審査工程であるため、可能な限り多数の審査委員により行いたい。

### 10.3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。(創立130周年事業)

1. 「くしろ防災屋台村」(都市防災専門委員会)
2. 「鉄のまち室蘭の原点を巡る」(歴史意匠専門委員会)
3. 第42回北海道建築賞表彰式・記念講演会(支部主催)

### 11. 建築関連団体との活動

#### 11.1 AIJ-JIA 合同委員会(委員数(AIJ):9名, 委員会開催予定数:1回)

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

#### 11.2 北海道建築設計会議

10団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

IV 2017 年度収支予算案

2017 年度 予算書（正味財産増減計算ベース） 北海道支部

科 目	2017年度予算額	2016年度予算額	前年度比 (増 減)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 他会計からの振替額			
本部からの交付金	(6,602,000)	(6,601,000)	(1,000)
支部費	1,597,000	1,590,000	7,000
経営助成費	1,800,000	1,800,000	0
事業促進費	300,000	300,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	0
建築文化事業費	534,000	540,000	▲6,000
大会交付金	-	-	0
支部事務費	300,000	300,000	0
支部事務所費	1,871,000	1,871,000	0
他会計からの振替額計 (A)	6,602,000	6,601,000	1,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(325,000)	(▲150,000)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(325,000)	(▲150,000)
表彰関係事業	175,000	325,000	▲150,000
その他事業会計	(2,140,000)	(2,160,000)	(▲20,000)
研究会事業	(2,140,000)	(2,160,000)	(▲20,000)
支部研究発表会	1,050,000	1,080,000	▲30,000
建築作品発表会	1,070,000	1,080,000	▲10,000
過年度研究会	20,000	-	20,000
法人会計	(203,000)	(126,000)	(77,000)
特定資産運用益	(2,000)	(5,000)	(▲3,000)
特定資産運用益	2,000	5,000	▲3,000
雑収益	(201,000)	(121,000)	(80,000)
受取利息	1,000	1,000	0
雑収益その他	200,000	120,000	80,000
経常収益計 (B)	2,518,000	2,611,000	▲93,000
[経常費用]			
実施事業会計	(1,920,000)	(2,210,000)	(▲290,000)
調査研究事業	(740,000)	(740,000)	(0)
調査研究事業	740,000	740,000	0
表彰・顕彰事業	(760,000)	(1,040,000)	(▲280,000)
表彰関係事業	720,000	1,000,000	▲280,000
設計競技事業	40,000	40,000	0
社会対応事業	(420,000)	(430,000)	(▲10,000)
文化事業費	390,000	400,000	▲10,000
展示事業費	30,000	30,000	0
その他事業会計	(1,935,000)	(2,060,000)	(▲125,000)
研究会事業	(1,935,000)	(2,060,000)	(▲125,000)
支部研究発表会	855,000	980,000	▲125,000
建築作品発表会	1,080,000	1,080,000	0
法人会計	(6,283,000)	(6,152,000)	(131,000)
支部運営	(310,000)	(310,000)	(0)
総会	250,000	250,000	0
常議員会	40,000	40,000	0
その他運営費	20,000	20,000	0
事務運営	(5,973,000)	(5,842,000)	(131,000)
給与手当	2,100,000	2,000,000	100,000
退職給付引当金繰入	60,000	60,000	0
法定福利厚生費	366,000	325,000	41,000
福利厚生費	25,000	25,000	0
通勤手当	176,000	176,000	0
旅費・交通費	20,000	30,000	▲10,000

科 目	2017年度予算額	2016年度予算額	前年度比 (増 減)
通信・回線費	125,000	125,000	0
発送・運搬費	34,000	34,000	0
消耗品費	50,000	50,000	0
印刷費	120,000	100,000	20,000
地代・家賃	2,024,000	2,024,000	0
水道光熱費	648,000	648,000	0
支払手数料	30,000	30,000	0
賃借料	145,000	145,000	0
雑費その他	50,000	70,000	▲ 20,000
経常費用計 (C)	10,138,000	10,422,000	▲284,000
当期経常増減額 (A) + (B) - (C)	▲1,018,000	▲1,210,000	192,000
当期一般正味財産増減額	▲1,018,000	▲1,210,000	192,000
一般正味財産期首残高	11,611,000	12,984,000	▲1,373,000
一般正味財産期末残高	10,593,000	11,774,000	▲1,181,000
指定正味財産期末残高	-	-	-
正味財産期末残高	10,593,000	11,774,000	▲1,181,000

支部特定資産積立と取崩の実績と予定

(2016年度実績 2017年度予定)

	2016年度 特定資産積立・取崩 実績				2017年度 特定資産積立・取崩 予定		
	2016年度 期首残高	2016年度 積立	2016年度 取崩	2016年度 期末残高	2017年度積立	2017年度取崩	2017年度末残高
学術振興基金引当資産	5,150,000円	0円	△390,000円	4,760,000円	0円	△90,000円	4,670,000円
支部基金引当資産	2,610,000円	0円	0	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円
災害調査研究基金引当資産	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円
退職給付引当資産	900,000円	60,000円	0円	960,000円	60,000円	0円	1,020,000円
合計	10,560,000円	60,000円	△390,000円	10,230,000円	60,000円	△90,000円	10,200,000円

【2016年度 積立・取崩実績】

学術振興基金引当資産 ①40周年記念誌刊行費用として300,000円を取崩。②特定課題研究委員会に90,000円を取崩。  
①と②の合計で390,000円を取崩  
退職給付引当資産 2016年度職員退職給付引当金として60,000円を積立。

【2017年度 積立・取崩予定】

学術振興基金引当資産 特定課題研究委員会(戦前馬産地の建築)に90,000円を取り崩し予定。  
退職給付引当資産 2017年度職員退職給付引当金として60,000円を積立予定。

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿

2017年3月末現在

◆法人正会員

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00503-64	1	伊藤組土建(株)	00547-58	1	戸田建設(株)札幌支店
00505-34	2	岩倉建設(株)	00553-56	1	(株)巴コーポレーション
00505-50	2	岩田地崎建設(株)	00557-04	1	日鐵住金セメント(株)
00515-72	1	(株)岡田設計	00614-45	1	日本データサービス(株)
00729-26	1	亀田工業(株)	00560-51	1	(株)日本設計札幌支社
00517-00	5	鹿島建設(株)	00561-82	1	日本防水総業
00614-38	1	(株)ホーム企画センター 総務部	00573-66	1	(株)三菱地所設計
00523-82	2	(株)熊谷組	00625-81	1	(株)アトリエアク
00568-23	2	(株)北海道日建設計	00586-89	1	北農設計センター
00571-46	3	丸彦渡辺建設(株)	00674-50	1	(株)中原建築設計事務所
00540-41	5	大成建設(株)札幌支店	00616-32	1	(株)北方住文化研究所
00575-10	1	宮坂建設工業(株)	00568-07	1	(株)ドーコン
00544-49	2	(株)竹中工務店 北海道支店	00618-60	1	北海道建築設計監理 (株)
00674-76	1	(株)安藤・間札幌支店	00568-15	2	北海道コンクリート 工業
00674-84	1	五洋建設(株) 札幌支店	00531-84	1	清水建設(株)北海道支店
00549-52	1	東急建設(株) 札幌支店	00538-83	2	(株)田中組
00710-77	1	(株)久米設計札幌支社	00684-14	1	(株)三暁プレコン システム
00684-22	1	(株)サンキットエーイー	00685-29	1	(株)北海道不二サッシ
00708-51	2	北海道旅客鉄道(株)	00704-45	1	(株)アトリエブンク
00725-28	1	(株)コバエンジニア	00704-09	2	(一財)北海道建築指導 センター
00721-70	1	(株)土屋ホーム			



◆贊助會員

會員番号	口数	會員社名・団体名
00814-70	3	北海道電力(株)
00810-06	1	道都大学附属図書情報館
00815-01	1	北海学園大学附属 図書館
00847-03	1	(株)総合資格



一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1  
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: [aij-hkd@themis.ocn.ne.jp](mailto:aij-hkd@themis.ocn.ne.jp)

<http://hokkaido.aij.or.jp/wp/>